様　式　C－１９、F－１９－１、Z－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：１３６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３７０２１１

研究課題名（和文）中世前期真言宗寺院における学問形成についての文献学的研究

研究課題名（英文）Literature study on academic formation in the Shingon temple in the early Middle Ages

研究代表者

渡辺　匡一（WATANABE, Kyoichi）

信州大学・学術研究院人文科学系・教授

研究者番号：４０３０６０９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：香川県善通寺市に所在する真言宗の拠点、善通寺所蔵の行法次第書の調査・研究を中心に、長野県諏訪地方における真言宗の談義所、佛法紹隆寺(長野県諏訪市)、福島県磐城地方における真言宗の談義所、宝聚院(福島県いわき市)所蔵の行法次第書の調査・研究の成果を併せ、行法次第書の資料的価値を明らかにし、平安時代後期から鎌倉時代における真言宗寺院の学問形成がどのように行われてきたかを考察した。また、諏訪地方における南北長期から室町時代における寺院展開についても明らかにした。

研究成果の概要（英文）：By studying Gyoho-Syo Shingon temple holdings, we considered the way of academic formation from the Heian period to the Kamakura period. Conducted a survey of Gyoho Statement Zentsuji Temple(Zentsuji City, Kagawa Prefecture), Buppo-shoryuji Temple(Suwa, City,Nagano Prefecture), Hojuin Temple(Iwaki City, Fukushima Prefecture) is holding, I built a database. We also revealed the expansion of the temple in the Suwa district from the Nanbokutyo to the Muromachi period.

研究分野：日本中世文学

キーワード：真言宗　行法次第書　学問形成　善通寺　醍醐寺　諏訪地方　学問形成

１．研究開始当初の背景

寺院の書物調査・研究としては、国語学を中心とした高山寺典籍文書綜合調査団による高山寺（京都市）、青蓮院（京都市）などの調査・研究に始まり、国文学研究資料館による西教寺（大津市）、善通寺（善通寺市）などの調査・研究、大阪大学による河内金剛寺（河内長野市）、随心院（京都市）の調査・研究、名古屋大学を中心とする仁和寺（京都市）、真福寺（名古屋市）などの調査・研究などが挙げられる。これら諸宗派の大寺院の調査・研究によって、経典・和歌・物語・注釈書などの新資料が次々と報告され、中世文学研究に「資料学」なる新領域を創出するに至った。2005 年 5 月、中世文学会学会創設 50 周年記念大会シンポジウム「中世文学研究の過去・現在・未来」（青山学院大学）の第一分科会として「中世文学と資料学」が設けられたのは、象徴的な出来事であった。研究代表者も、国文学研究資料館による善通寺調査に関わり、研究成果として、「善通寺蔵『秘密源底口訣』紹介と翻刻」（『善通寺教学振興会紀要』 善通寺教学振興会 1999 年 2 月）、「光国関係資料から見る善通寺蔵書形成の一齣」（『古典形成の基盤としての中世資料の研究』 国文学研究資料館 2006 年 3 月）などを提出している。

２．研究の目的

研究代表者は、諸宗派の大寺院の調査・研究に関わる一方で、地域寺院に注目し、いわき明星大学赴任時(1998～2002)より、奥州磐城における真言宗の談義所であった宝聚院（いわき市）の書物調査・研究（1999 年 9 月～）、信州大学赴任時より信州諏訪における真言宗の談義所であった佛法紹隆寺の書物調査・研究(2003 年～)などを行ってきた。調査・研究を進めていく中で、中世における内陸地域の真言宗の学問形成を、複数の地域寺院間における書物の伝播によって明らかにするという研究方法を着想した研究代表者は、その可能性を、「仏法紹隆寺覚え書（『内陸文化研究』3 号 信州大学人文学部 2004 年 2 月)、「法の道を伝える僧侶たち―佛法寺七世俊円の書写本を中心に―」（『佛法紹隆寺開創千二百年記念誌』佛法紹隆寺 2006 年 11 月）として提出し、中世文学会学会創設 50 周年記念大会シンポジウム第一分科会、「中世文学と資料学」において、「地域寺院と資料学」の題目で発表した。

科学研究費補助金「中世後期内陸地域における真言宗寺院の学問状況についての基礎的研究」(基盤研究(Ｃ) 平成 19～21 年度)が採択されたことによって、佛法紹隆寺、宝聚院を中心とした書物の調査・研究を行い、寺院間における伝播状況を明らかにした研究代表者は、「中世後期真言宗寺院における学問形成についての基礎的研究(基盤研究Ｃ) 平成 22～24 年度)が採択されたことによって、書物だけでなく、学問修養に励む僧侶たちが「何時、何処で、誰から」学んだかが明らかになる行法次第書の調査・研究を行い、京都醍醐寺から、内陸地方・北関東を経て東北磐城地方にまで至る、学問形成の更なる広がりを明らかにしようとしている。成果の一部は、「関東元祖俊海法印」（『中世文学と寺院資料・聖教』竹林舎 2010 年 10 月）として提出している。

さらに調査・研究を進めて行く内に、研究代表者は、行法次第書の新たな可能性を見出すにいたった。行法次第書には、「何時、何処で、誰から」学んだかだけではなく、その行法が行われた、平安時代以降の先例や他流派（寺院）との相違点などが書き込まれていたのである。したがって、行法次第書の先例や他流派との相違点などを丹念に追っていけば、時代を遡って各流派の学問体系がどのように形成されていったのかが明らかになると考えられるのである。なお、この着想に基づいて発表した論文「よぢり不動考」(『説話文学研究』44 号 説話文学会 2009 年 7 月)

では、たとえ書写年代が新しくても、流派によって厳格に伝授された行法次第書の先例が信用に値することを明らかにし、平安時代後期に修された安祥寺流独自の行法（鎮宅法）について論じている。

平安時代後期から鎌倉時代にかけて確立されたとされる真言宗小野三流(安祥寺流・勧修寺流・随心院流)の学問体系については、名古屋大学による勧修寺の調査・研究、大阪大学による随心院の調査・研究が目覚ましい成果を挙げているが、安祥寺流については、いまだに不明な点が多い。また、勧修寺流、随心院流の調査・研究においても、行法書の網羅的調査・研究はなされていない。

幸いなことに、研究代表者が 20 年来調査に係わっている善通寺には、江戸時代宝永年間に 12 年間をかけて体系的に集められた安祥寺流の行法次第書約 2000 点の他、勧修寺流、随心院流などの行法次第書が所蔵されている。本研究は、善通寺所蔵の安祥寺流行法次第書を中心に、今まで行って来た、佛法紹隆寺、宝聚院の調査・研究の成果も併せて、平安時代後期から鎌倉時代における真言宗寺院の学問形成がどのように行われてきたかを明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

(1) 善通寺が所蔵する、安祥寺流・勧修寺流・随心院流・醍醐寺三宝院流の行法次第書の画像データを収集し、先例・奥書・書き込みなどのデータを入力して、データベースの構築を図る。

(2) 小野三流のデータを連動・分析することによって、それぞれの寺院が、他寺との関わりの中で、どのように学問形成を行ってきたのかを明らかにする。また、宝聚院、佛法紹隆寺所蔵のデータも必要に応じて連動させる。データベースは、当該寺院のホームページなどを通して公開する予定である。

４．研究成果

(1) 小野三流の画像データを収集し、先例・奥書・書き込みなどのデータベースを利用し、安祥寺流の行法次第書『小皮籠』を中心にして、三流の学問形成のあり方を検討した。

(2) 小野三流と並び、後には中心的役割を担った醍醐寺三宝院流の平安時代後期から鎌倉時代における学問の継承を検討した(〔図書〕①)。

(3) 醍醐寺三宝院流、高野山中院流を相承した諏訪地方における南北朝期から室町時代における寺院展開について考察した(〔図書〕②)。

(4) 諏訪地方において、中院流を相承した諏訪善光寺の縁起を翻刻・紹介した(〔雑誌論文〕①)。

(5) 善通寺、佛法紹隆寺、宝聚院、如来寺(福島県いわき市)の蔵書形成の特徴をもとに、寺院資料と文学研究のあり方について考察した(〔学会発表〕①、〔雑誌論文〕②)

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2 件）

①<u>渡辺匡一</u>、寺院資料調査と文学研究、仏教文学、査読有、42 号、2017.4、pp.4-8

②鈴木映梨香、寺澤誠人、<u>渡辺匡一</u>、善光寺(諏訪市)蔵『当寺記録帳』紹介と翻刻、信州大学附属図書館研究、査読無、6 巻、2017.1、pp.1-15

〔学会発表〕（計　1 件）

①<u>渡辺匡一</u>、寺院調資料と文学研究のあり方について、仏教文学会、2015,12,5、キャンパスイノベーションセンター東京(CIC 東京)

〔図書〕（計　2 件）

①<u>渡辺匡一</u>、日本文学の展望を拓く、笠間書院、2017.10、印刷中

②福田晃、徳田和夫、二本松康宏編。共著者：福田晃・山本ひろ子・二本松康宏・真下厚・

大島由紀夫・二本松泰子・徳田和夫・渡辺匡一・小林崇仁・村石正行・永松敦、諏訪信仰と伝承文学、2015.9、pp.239-258

６．研究組織
(1)研究代表者
渡辺　匡一　（WATANABE, Kyoichi）
信州大学・学術研究院人文科学系・教授
研究者番号：40306098